

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成26年5月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が56.2%で最も高く、次いで「信用金庫」が31.6%と、この2つで約9割を占めている。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では27.4と「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が68.6%と最も高い割合を占めた。「変化なし」は、業種・規模・取引金融機関にかかわらず概ね7割前後であり、安定した状況が続いている。
- 最近の借入金利は、「2%未満」が43.2%と最も高く、次いで「2%台」が39.5%となった。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、全体では19.9となり、前回（24.3）と比べて減少している。
- セーフティネット保証による融資の利用状況は、「現在利用しており、今後も利用を希望」22.3%と「現在利用しているが、今後は利用しない」5.4%をあわせて27.7%となった。

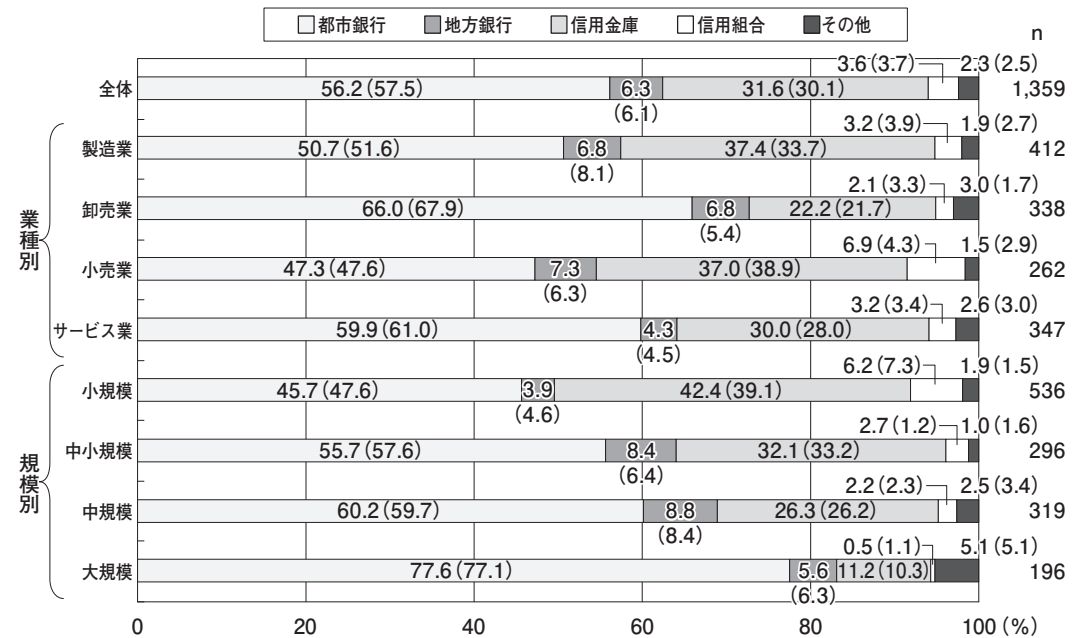
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、前回とほとんど変わらず、全体では「都市銀行」が56.2%（前回57.5%）で最も高く、次いで「信用金庫」が31.6%（同30.1%）であり、この2つで約9割を占めている。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、卸売業では66.0%とおおむね3社に2社が利用している。次いで、サービス業でも約6割を占めている。一方、製造業と小売業では、「都市銀行」は半数程度で、第2位の「信用金庫」が4割近くに達した。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「都市銀行」が高くなっており、大規模では8割近くに達している。一方、小規模では「都市銀行」と「信用金庫」の割合はおおむね拮抗している。

図表1 主な取引金融機関



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。()内は前回値(平成25年11月調査)。

2 借入や返済に対する姿勢

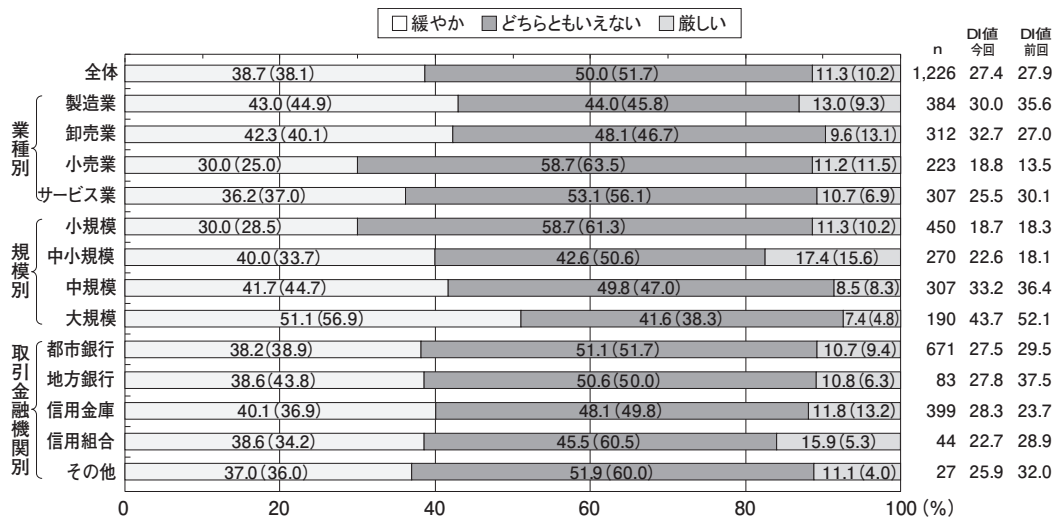
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では27.4（前回27.9）と「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。

業種別にみると、卸売業32.7（同27.0）が5.7ポイント改善し、他の業種に比べ最も状況が良くなっている。一方、小売業18.8（同13.5）は5.3ポイント改善したものの、依然として他の業種に比べ最も厳しい状況が続いている。このほか、製造業30.0（同35.6）は5.6ポイント、サービス業25.5（同30.1）は4.6ポイントそれぞれ低下した。

規模別にみると、大規模はDI値が43.7（同52.1）と8.4ポイント低下したものの、依然として他の規模に比べ最も良い状況が続いている。このほか、中規模33.2（同36.4）も低下、中小規模22.6（同18.1）は改善、小規模18.7（同18.3）は横ばいとなった。

取引金融機関別にみると、地方銀行27.8（同37.5）が9.7ポイントと大きく低下したほか、信用組合22.7（同28.9）とその他25.9（同32.0）がともに約6ポイント低下した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



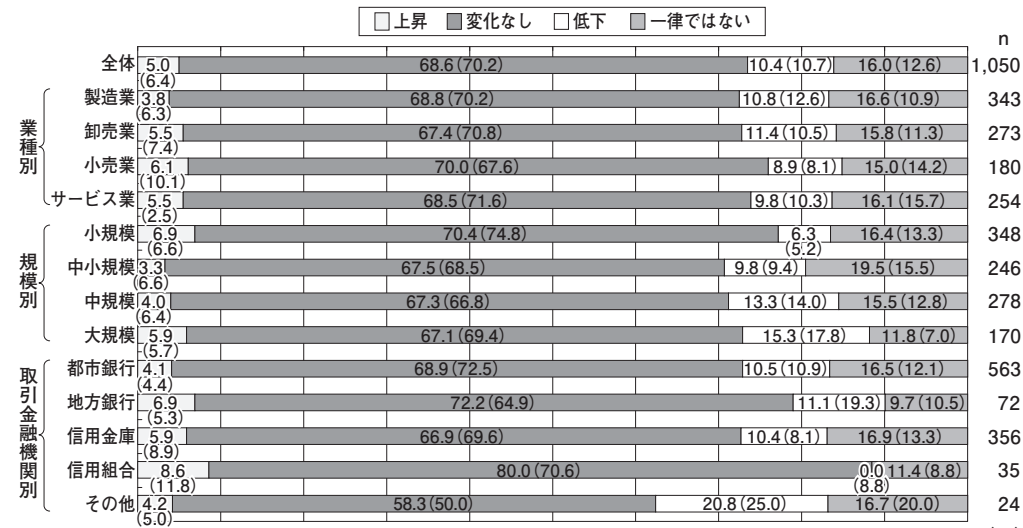
注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成25年11月調査)。

3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が68.6% (前回70.2%) と最も高い割合を占めた。「変化なし」は、業種・規模・取引金融機関にかかわらず概ね7割前後であり、安定した状況が続いている。

図表3 金利傾向



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成25年11月調査)。

(2) 金利水準

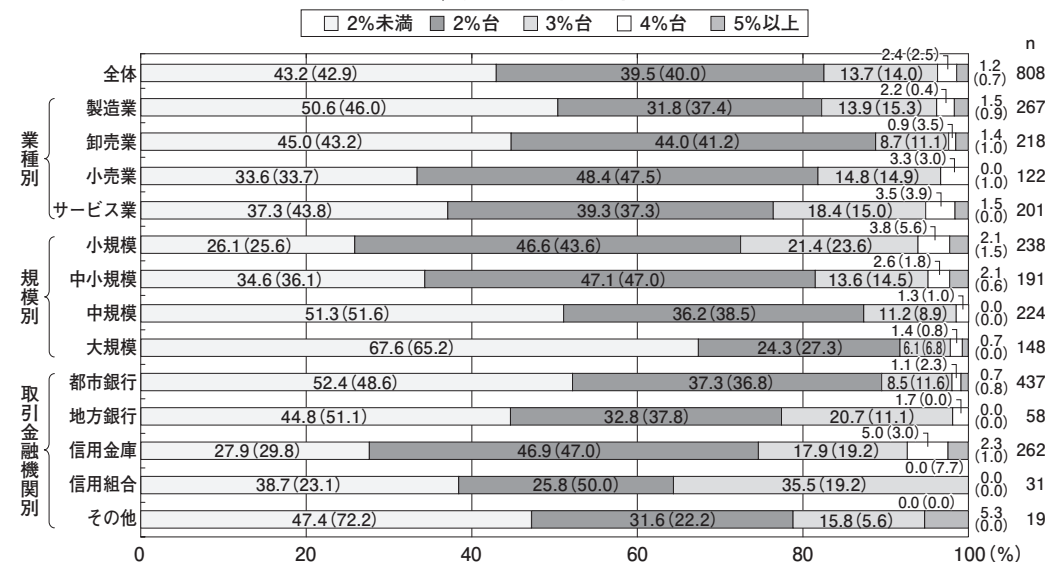
最近の借入金利は、「2%未満」が43.2% (前回42.9%) と最も高く、次いで「2%台」が39.5% (同40.0%) となった。前回との変動はわずかだった。

業種別にみると、製造業では「2%未満」が50.6% (同46.0%) と4.6ポイント増加し半数となり他の業種に比べ一段と金利水準が低めとなった。一方、サービス業では「2%未満」が37.3% (同43.8%) と6.5ポイント減少し、「2%台」と「3%台」がわずかに増加しており、金利水準が高めに推移した。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「2%未満」が高くなっている。前回に比べると、大規模で「2%未満」が67.6% (同65.2%) とわずかに増加し、他の規模との差がひらいた。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行で「2%未満」が52.4% (同48.6%) と前回よりも増加し、半数を上回った。

図表4 金利水準



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成25年11月調査)。

4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)で見ると、全体では19.9となり、前回(24.3)と比べて減少している。

業種別において小売業19.2(前回29.3)が大きく減少したほか、規模別において大規模20.8(同30.8)と中規模20.5(同31.1)が大きく減少した。一方、金利水準別においては4%台と5%以上でDI値が増加した。

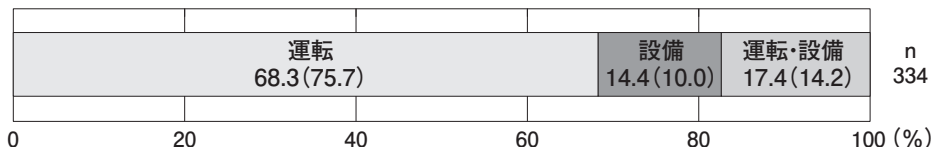
図表5 資金需要（今後3か月間）



(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」68.3%が最も高く、次いで「運転・設備」が17.4%、「設備」が14.4%となった。前回に比べると、「運転」が7.4ポイント減少し、「設備」が4.4ポイント増加した。

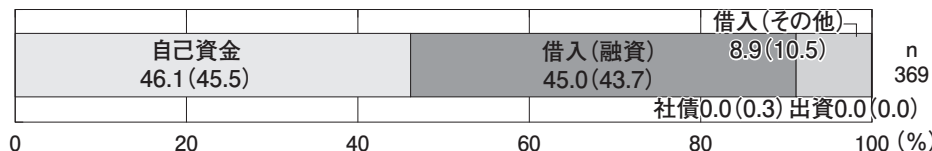
図表6 資金使途



(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「自己資金」46.1%が「借入（融資）」45.0%を上回り、最も高くなった。「自己資金」は平成24年5月(42.3%)より増加が続いている。

図表7 調達手段



5 セーフティネット保証による融資の利用状況

セーフティネット保証による融資の利用状況をみると、「申込みをしたことがない」が全区分において最も高い割合であり、全体では48.7%と半数近くになった。次いで「現在利用しており、今後も利用を希望」が22.3%を占め、「現在利用しているが、今後は利用しない」の5.4%とあわせると、セーフティネット保証の利用は27.7%となった。

業種別にみると、セーフティネット保証の利用は、製造業と卸売業で3割を超えており、「現在利用しており、今後も利用を希望」は4社に1社となった。

規模別にみると、小規模においてセーフティネット保証の利用が21.2%と他の規模より低く、このほかの規模は3割を超えた。

取引金融機関別にみると、信用組合においてセーフティネット保証の利用が15.8%と低く、都市銀行、地方銀行及び信用金庫では3割前後となった。

図表8 セーフティネット保証による融資の利用状況

